

第18回運営諮問委員会

報 告 書

令和7年2月

釧路工業高等専門学校

第18回運営諮問委員会

日 時 令和7年2月28日（金）
13時00分～15時00分
場 所 釧路工業高等専門学校会議室

【次第】

- ・開会の辞
- ・開会挨拶
- ・委員紹介
- ・委員長選出
- ・審議

議題1 本校の特色ある教育について [資料1]

- ・国際交流事業
- ・半導体教育
- ・学生の学習サポート（SSL）
- ・課外活動

議題2 学生生活サポートについて [資料2]

議題3 内部質保証について [資料3]

- ・閉会挨拶
- ・閉会の辞

第18回釧路工業高等専門学校運営諮問委員会委員名簿

令和7年2月28日

運営諮問委員会委員

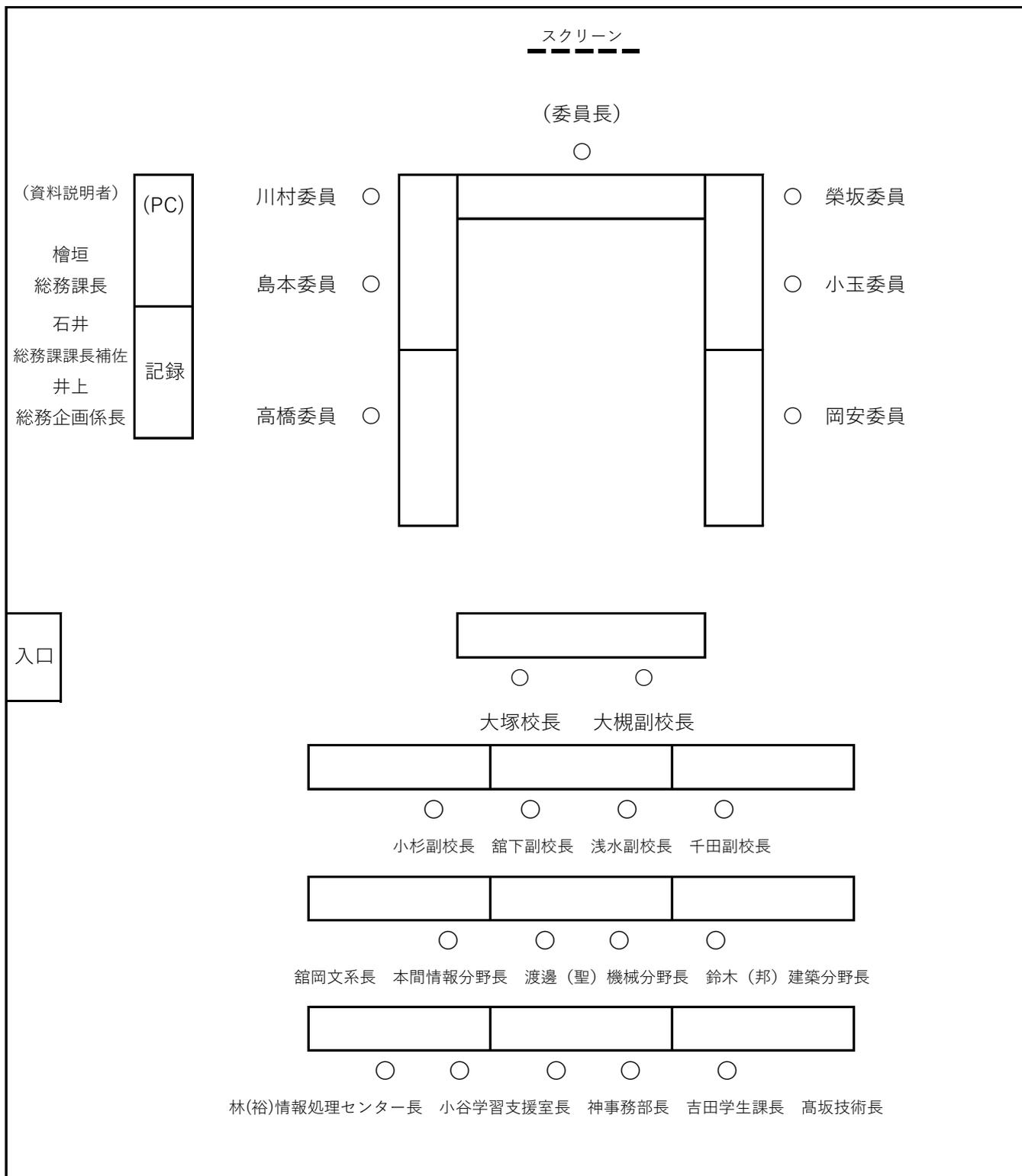
委員	北見工業大学長	榮 坂 俊 雄
委員	釧路市副市長	中 村 基 明
委員	釧路市教育委員会教育長	岡 部 義 孝
委員	釧路市小中学校校長会中学校長会会長 (釧路市立幣舞中学校長)	小 玉 功
委員	釧路商工会議所専務理事	川 村 修 一
委員	釧路工業高等専門学校地域振興協力会会長	島 本 幸 一
委員	釧路工業高等専門学校同窓会会長	岡 安 正 人
委員	釧路工業高等専門学校後援会会長	高 橋 浩 之

(釧路工業高等専門学校)

校 長	大 塚 友 彦
副校長 (教務担当) / 教務主事 / 創造工学科長 / 教育研究支援センター長	山 田 昌 尚
副校長 (学生担当) / 学生主事 / 学生サポートセンター長	大 槻 香 子
副校長 (寮務担当) / 寮務主事	小 杉 淳
副校長 (校務担当) / 校務主事 / 図書館長	舘 下 徹 志
副校長 (専攻科担当) / 専攻科長 / 電子工学分野長	浅 水 仁
副校長 (研究担当) / 地域共同テクノセンター長	千 田 和 範
校長特別補佐 / 国際交流委員会委員長	中 島 陽 子
一般教育部門文系長 (一般教育部門長)	舘 岡 正 樹
一般教育部門理系長	池 田 盛 一
情報工学分野長	本 間 宏 利
機械工学分野長	渡 邊 聖 司
電気工学分野長	佐 川 正 人
建築学分野長	鈴 木 邦 康
情報処理センター長	林 裕 樹
学習支援室長	小 谷 泰 介
事務部長	神 智 行
総務課長	檜 垣 秀 行
学生課長	吉 田 哲 也
技術長	高 坂 宜 宏

会 場 図
(釧路高専会議室)

第18回運営諮問委員会 令和7年2月28日(金) 13時00分～15時00分



○釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則

(平成16年9月21日制定)

改正 平成19. 1. 9 平成19. 4. 26釧高専達第26号

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、釧路工業高等専門学校運営諮問委員会(以下「諮問委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 諮問委員会は、校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し、校長に対し意見を述べる。

2 校長は、諮問委員会からの意見を、本校の運営に反映させるものとする。

(審議事項)

第3条 諮問委員会は、次の各号に掲げる事項について、審議する。

(1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

(2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項

(3) その他本校の運営に関する重要事項

(組織)

第4条 諮問委員会は、本校の教職員以外の者で、高等専門学校に関し見識を有する者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

(委員長)

第5条 諮問委員会に委員長を置き、その委員長は委員の互選をもって充てる。

2 委員長は、諮問委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(任期)

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(開催)

第7条 諮問委員会は、委員長が招集し開催する。

(委員以外の者の出席)

第8条 諮問委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(審議状況の公表)

第9条 校長は、諮問委員会の審議状況を、広く周知を図ることができる方法によって公表しなければならない。

(事務)

第10条 諮問委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問委員会の運営に関し必要な事項は、諮問委員会が定める。

附 則

この規則は、平成16年9月21日から施行する。

附 則

1. この規則は、平成19年2月1日から施行する。

2. この規則施行の後、最初に第4条の規定により委嘱される委員の任期は、第6条第1項本文の規定にかかわらず平成21年3月31日までとする。

附 則(平成19. 4. 26釧高専達第26号)

この規則は、平成19年4月26日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

第18回

釧路工業高等専門学校運営諮問委員会 記録

令和7年2月28日(金)

13時00分～15時00分

<開会の辞>

【総務課長】

ただいまから、第18回釧路工業高等専門学校運営諮問委員会を開催いたします。

私は、進行役を務めさせていただきます総務課長の檜垣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本委員会の様子を記録用及びウェブサイトなどの広報用として写真撮影をさせていただきたいと存じますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。

それでは、委員会開催に先立ちまして、本校校長大塚よりご挨拶申し上げます。

<開会挨拶>

【大塚校長】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。校長の大塚でございます。

本委員会は今回で18回目となりますが、本校の教育をより良くするために、この地域の外部の有識者の先生方、委員の先生方のお声を教育改善に繋げていきたいという趣旨で実施しております。

今回、北見工業大学の榮坂先生、釧路小中学校校長会中学校長会会長の小玉先生、並びに釧路工業高等専門学校同窓会会長の岡安様は、初めてのご出席と伺っております。皆様、忌憚のないご意見、ご助言をいただくとありがたく思います。

今日のテーマですが、1点目は本校の特色ある教育、2点目は学生の生活サポート、そして最後3点目は内部質保証、教育の質保証に関するテーマについて説明させていただいて、都度、ご助言、ご指導を仰ぎたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

<委員紹介>

総務課長から各委員が紹介された。

続いて本校出席者が紹介された。

<委員長選出>

釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則第5条に基づき、委員の互選により委員長の選出を行う必要があるが、例年、北見工業大学長に依頼していた経緯もあり、今回も北見工業大学の榮坂委員に委員長をお願いしたい旨の提案があり、榮坂委員が委員長に選出された。

<委員長挨拶>

【榮坂委員長】

改めまして、榮坂でございます。司会進行を務めさせていただきたいと思ひます。

昨年4月に学長を拜命しまして、まだ1年経ってないというところで、いろいろ様子が分らないところもござひますが、本日の議題を拝見しますと、いずれも本学においても非常に関心のある重要なテーマでござひますので、皆様と一緒にこの議題について検討させていただいて、我々も参考にさせていただきたいというふうに考えております。どうぞ活発なご議論をよろしくお願ひいたします。

<議事>

【榮坂委員長】

早速議事の方に入らせていただひきたいと思ひます。最初に議題の1番目、本校の特色ある教育について、大塚校長から資料1に基づきご説明をお願ひいたします。

【大塚校長】

(「議題1 本校の特色ある教育について」 資料1に基づき説明)

【榮坂委員長】

ありがとうございます。ただいまのご説明に対するご質問、ご意見、ご要望をお伺ひしたいと思ひますので、挙手いただひて、ご発言いただひければと思ひます。

【榮坂委員長】

最初ですので、私から口火を切らせていただきます。代表的な3つの特色、実践体験、社会課題への取組み、5年間の一貫した教育に関して、科学技術系の分野に関しては非常に有効だと、私も実感しております。本学でも、大学3年生として高専から編入いただくという制度がござひまして、私の印象としては非常に優秀な学生さんが多い、それは、優秀な学生さんを送っていただひているというところもあると思ひますが、私の研究室にも何人も入ってきて、最初の頃の学生は、起業して札幌で100人規模の社長をやっている、頭が良ひだけでなくバイタリテイもある、そういう学生です。

早めに実践的な課題、社会課題に取り組むことは、学問においても非常に有効だと、つまり、大学においては一つ一つ、学問というのは体系的なものですから基礎のところから少しずつ、それはやり方として間違ひないですが、それがどういうことなのか、全体像が分かるまではなかなかモチベーションが上がらないんですね。そういう意味では、高専がある程度初めの段階で社会課題、こういう問題はこういうことをやれば解決できるんだというところに気づくことがまず最初にあつて、それから、そのためにどういうことをやるのかということをしつくりやる、そういう順番でもあつた、むしろそちらの方が科学技術には有効なん

じゃないかなというふうに思っていて、そういう意味では、まず高専で、どういう意味があるのか、この勉強、この学びが一体どういうところに社会に結びつくのかというところを分かった上で学問に取り組んでいただくという意味でも、最初にこういうことをやっていただくというのは有効だと実感しております。

質問は、本学においても語学に弱い学生が多いので海外留学を斡旋しているんですけども、ハードルが高くて参加できない子が多くてですね、そのあたりは特別にサポートはされているのでしょうか。

【大塚校長】

ありがとうございます。授業でももちろんやっているんですけども、授業以外にオンライン英会話として、DMM 英会話というところとやっています。まだ全員というわけではありませんが、特に語学に興味があって、英語を使っていきたいという学生さんに機会を提供しております。そのほか、短期留学生在が年間 20 名ほど来ていますので、来るたびに簡単なゲーム、英語でお国の文化自慢などの国際交流イベントを行っています。学生主体でやっているのです、やわらかい雰囲気の中で、お菓子とかを食べながらやっています。英語しか共通語がないので、英語を使ってみる。英語を使ってうまく通じなかった、でも上達したいという学生がオンライン英会話を使うという状況になっています。まだまだ規模としてはこれから広がっていかないといけないという状況なんですけれども、少しずつ学生主体でそんな動きが出てきています。頑張っている学生さんは、おそらく、すぐ海外に行って生活できるくらいの英語力の学生も何人もいるような感じなので、英語に慣れていない学生さんにも参加してもらえよう働きかけていきたいと思います。

【榮坂委員長】

ありがとうございました。ほかの皆さんはいかがでしょう。

【高橋委員】

留学した学生の生活サポート、例えば病気や怪我、治安に関するサポートはどういうことをされているのでしょうか。

【大塚校長】

ありがとうございます。実は後援会からのご支援もいただいて、本校では海外渡航の危機管理会社、保険会社ですけども、そこと契約しております。我々も 24 時間、学生さんからの連絡を受け取れるのはもちろんなんですけれども、学生さんが、例えば現地で風邪をひいたり、お腹を壊したりしたときに 24 時間つながるホットラインがありまして、日本語対応可能な病院を紹介してくれる仕組みもあります。フィンランドの場合は 4 ヶ月くらい滞在するんですけども、メンタル相談、いわゆるホームシックになったときにカウンセラー

に相談できるダイヤルも用意して、そういう形でサポートしております。本当に何かあったときには、本校教職員が飛んでいける体制になっています。

【高橋委員】

ありがとうございます。

【榮坂委員長】

そのほかはどうでしょうか。

【川村委員】

冒頭のソーシャルドクターは素晴らしいと思いました。その上で、経済界と結びついて地域課題を共有できればと思いました。釧路は地域課題の宝庫だと思います。各種コンテストに参加して発想力を育む姿勢というのは、高く評価したいと思います。専門分野以外の体験がひらめきを生むと言われていています。せっかく地元で釧路公立大や教育大がありますので、キャンパス交流を通じてお互いに刺激しあう機会も必要なのかなと思います。前例のない体験がひらめきを生むと言われていていますので、公立大学や教育大学などとキャンパス交流もあればと思います。私見も含めて以上でございます。

【大塚校長】

ありがとうございます。実は地域課題に関しては、例えば先ほどの水耕栽培の事例なども、大楽毛で水耕栽培をしている企業からサポートいただいていると聞いています。そのほか防災のテーマでは、防災避難所で使う段ボールベッドの設計などは釧路市の防災士の方、10名弱の方にご協力いただき、学生が設計したものを品評していただいたり、実際の避難所についてお話いただいたりしています。地域と連携することで、問題の本質を知ろうとする学生の好奇心が育まれていると感じています。ここに写っている写真の左から2番目、フィンランドからの留学生が来ている写真ですが、これは釧路市が開催した、釧路公立大学、北海道教育大学釧路校、釧路短期大学、釧路高専の4校に来ている留学生が集まって交流する場の写真です。4校が集まるとかなりの数の留学生がいますし、日本人同士でも専門分野が違うので、新しい着想を身につける、刺激を受けるといった意味でいい機会だったと思います。市内4つの高等教育機関がありますので、市の中心で交流できる機会をもっと増やせればと思います。

【小玉委員】

今年度、本校から推薦で高専に進学を決めた生徒が複数います。昔とちょっと変わってきたなと思うのは、オープンキャンパスなどで子どもたちが「高専に行ったら自分の興味関心のあることに夢中になれる可能性がある」と思ってるんですね。公立高校が自己推薦制度を

設けて今年 3 年目に入ります。公立高校を受験する生徒の自己アピール文と、高専に行きたい子どもたちのアピール文は全然違って、高専に行きたい子どもたちの方が圧倒的に質が高いと感じて、大きく変わってきたなと思っています。今、その子たちも夢を膨らませている状況なので、学習指導要領も変わって主体的な深い学びになって、お互いにアウトプットしながら学びの機会を深く追求しようという子どもたちが増えてきています。もっとやりたい、自分の興味関心を広げたいという子どもたちは釧路市内にもまだいっぱいいると思います。オープンキャンパスをここですのではなく、釧路の中心的な場所で開くとか、可能性を広げるともっと出てくるかもしれません。なぜかという、旧釧路川と新釧路川の場所によって、この高専が遠い果てに思っている地域もあって、今の子どもたちは自分の家から近いところに通いたい子どもがたくさんいるんです。ですから、学力に関係なく学校を選択していくこともあり、そこにチャレンジするには、この高専が魅力的でやりたいことができる、高校生の年齢からやれるという可能性をもっと膨らませることが、生徒を増やすことに繋がるのかなと思います。子どもたちを見ていて、その可能性はあると思います。オープンキャンパスをここだけでなく、もっと中心的な場所で開催するとか。出前授業は教育課程の時数の部分があって、学校側はきつぎつの課程を組んでいるので、そこら辺を工夫すると可能性は広がるのかなと思っています。

【大塚校長】

ありがとうございます。駅の近くで出張オープンキャンパスはいいかもしれません。貴重なご助言ありがとうございます。

【島本委員】

小玉先生の仰ったことはごもっともだと思います。今年は高校に進学したい生徒が 1,200 名ぐらいたったと思いますが、2028 年は 1,050 名程度と予想されていて、間違いなく 1,000 名切ると思うんですね。各学校で定員を満たすのは大変な時代です。高専の楽しさ、高専に入れば何を学べるのか、そして小玉先生の仰った、高専を志願する生徒のアピール度は高いというのはごもっともかなと思います。そういう意味で、極論ですが、大塚校長にも昨年商工会議所としてお願いをしました。「大楽毛にいていいのかい」と。授業と授業の間に時間があるとき、生徒が楽しめる空間、大楽毛に住んでいる人には申し訳ないのですが、そういう空間があるだろうか。サテライトでもいいから、まず一回出てきませんか、と。我々だけでなく国にも働きかけていけないなと思いますが、まずは出てきてほしい。私たちの頃と違って、今は多様性に富んでいますからお願いしたいというふうに思います。

留学の問題ですけれども、日本人が弱いのはやっぱり語学力。語学力をつける意味でぜひお願いしておきたいです。どの業界も人手不足です。外国人労働者を採用したい企業も多いですけれども、日本は海に囲まれてますから、ある面では異文化に親しむ機会、理解する場が少ないと思います。外国人の採用はいいけれど、文化の違いがわからない、食生活も宗教も

わからないという問題があります。そういう意味で、早く外に出て、よその文化、生活を身につけることは、日本が発展していく時に非常に大事なことだと思います。タフな子どもをたくさん作ってほしいなど。精神力がないと感じますので。それと課題を見つけて進んでいくのはいいことだなと。昔は暗記型でしたが、これからは自分で課題を見つけて解決していくことが大事かなと思います。2～3日前、テレビで、群馬県の前橋市にある大学だそうですね、Fランクって出ていたんですね。Fランクというのは偏差値のことを言うんだらうなど。他の大学がどんどん学生数が足りなくなっているのに、その大学は応募者が多いそうです。そして、受かったらいきなり授業ではなく、地域の中でボランティアでもいいし、企業のところに行ってアルバイトでもいいから何か見つけてやってみて、地域のことを知って、それが何ヶ月か経って、それが過ぎた時点で大学に集まって下さいというようなことで、大学、学校の役目も少しずつ変わってきているのかなと思います。ご苦労されるでしょうけれども、一つお願いします。

【大塚校長】

ありがとうございます。サテライトキャンパスを駅の近くにとというのは非常にいいアイデアだと思っています。本校としては、新しい建物を建ててほしいとか要求は出していますが、実績がいつも問われます。文科省もなかなか、高専が全国に51校あるものですから、地域と連携した取組みをさらに推進して、実績を集めてですね、いろんな形で要望を出していくのが大事かなと思いました。あと、たくましい若者をぜひ育成していきたいと思いません。ありがとうございます。

【榮坂委員長】

一つだけ確認したいのですが、高専に関心のある中学生が多いというか、意識が高まってきているのは非常に心強い話ですが、最近いろんな高校に行くと理系離れが非常に強くなっているし、その中でも特に物理や化学といった理系の基本的な科目の選択率が落ちているという話になっています。それとは別に、技術的などに関心がある子が増えているという、どういうことでしょうか。必ずしもそうではないということでしょうか。

【小玉委員】

どちらかという、何かに特化して学びたい、例えば、今回高専に行った子は数学が大好きで、数学の難しい問題を解いていくプロセスが楽しいというお子さんが学級の中に数パーセントずついるんです。いるんだけど、そこをちゃんと方向性を示してあげることがすごく大事なのかなと。普通高校を選択するという自由もあるし、高専という自由もあるし、理数科という自由もあると思うんですね。その中で普通科は何を売りにするのか、高専は何を売りにするのか、理数系は何を売りにするのかといった時に、高専が何を売りにするのかを明確にアピールしていくべきだと思うんですね。

昨年、うちの学校から四国の神山まると高専に行った生徒がいるんです。それはNHKのテレビを見て、自分がそこに行ってやりたいんだと親に説得して、三ツ輪のところにあるデジラボに行って課題のPRビデオを作って受験し、彼は今、まると高専でやっています。今年の3年生で渋学に行く生徒もいます。そうやって出ていっちゃうんですよね。そういうのはもったいないなって思って。地域にもっと夢中になって学習できる場があるんだよっていうことをアピールしていくことがすごく大事だし、その子どもたちが成長してこの地域を守り育てていくような人材になってくれればなと思っています。学級の中には、こだわって何かを突き詰めたい、理数離れしているとはいってもけっこういるんですよね。中学校でも学習指導要領が変わって、対話的に学ぶとかってやっていくと、数学の問題に対して、どんどん解き方に対して議論を深めていくとか、他の問題解決方法がないかということなどをどんどんやっているの、そういった子どもたちは間違いなくこれから、一旦下がってきましてけどこの先増えていくんじゃないかなって印象を持っています。

来年度から各中学校に1名ずつALTを配置する予算がついていますので、外国語に関しても、釧路は身近に外国人の方々と交流する場面、使うっていうことがなかなかないので。小学校から外国語が始まるんですけども、学年が進むにつれて興味関心やスキルが減っちゃう、それを何とか解決しようと全学校で取組みを始めています。

公立高校に関しては、あり方検討委員会というのが道教委で毎年あって、釧路管内学区の子どもたちの将来的な推移を2040年ぐらいまで計算して、高校をどういうふうに適正配置していくのかというような議論もやっておりますので、この辺の動向を見ていくというのは大事なのかなと思います。

【高橋委員】

小玉先生に伺いたいんですが、例えば中学生の保護者の方は、高専に対してどういうイメージを持っているのでしょうか。ネガティブな、例えば、就職は釧路を離れなきゃならないとか、一人っ子が多いですし、留年もあるとか、場所的にも釧路の端っこ。保護者の方々がどういうイメージを持っているのか伺いたいんですけども。

【小玉委員】

高専に対する基準は3つあると思います。1つは、本当に高専で学び、やりたいことに没頭したいと考えて、それを応援しようという保護者。それから次に、高校3年間やって社会に出る、高校3年から大学4年間やって社会に出るよりも、実践的な力を付けて5年間で社会に出して稼いでくれた方がありがたいという保護者の方々。それからもう1つは、上位偏差値の学校でなかなか入れるか分からないから一応高専も受けて、うまくいかなかったら高専だねという、その大体3つの分類になるかなと思います。だから、その親御さんたちの意識を変えていくには、高専ってこれだけ実践的に夢中になれる学びの場なんだということをおアピールしていくのがすごく大事なのかなと。

【高橋委員】

ありがとうございます。

【島本委員】

先生ちょっとお伺いしたいんですけど、今、高専に進まない基準みたいなのって、これ、実際にあった話で、工業高校を目指す子がいて、そしたら先生が「工業高校より高専目指せよ」と言って高専に入ったんですよね。残念ながらその子は学力がついていけなかったのか高専中退なんです。だからそういうのは逆に言うと、先生の手柄みたいなので、高専に入れた、高校に入れた、そういう部分ってないですか。工業高校しか入れないのに高専に入れるって言うのは、無茶だなと思っているんですが。

【小玉委員】

学校がどこの高校に何人入れたかは全く実績、教務評価の対象にはなりません。塾はあります。何が起きているかという、自己推薦が始まってボーダーラインの子どもたちが自己推薦で出てる。成績でいったら十分合格点に入っている子どもたちが自己推薦をするんじゃないくて、危ないなっていう子どもたちが自己推薦をする。それはダブルチャンスがあるから。誰がそういう指導をしているかと言うと、塾と親です。そこはすごく残念に思うんですよね。公立中学校で「工業高校に行くなら高専」という指導は、私は聞いたことがないですね。

【島本委員】

私もないんです。たぶんそんな話も、工業高校に行こうとしていたけれど高専…。

【高橋委員】

昔、僕の時代は「工業高校に行くなら、もうちょっと勉強して高専に行け」という、40年くらい前はありましたね。昔は留年しても辞めないで粘って、何年かかけて卒業していました。1年生の時に、技術系ではなく文系に進みたい、進路変更したいという生徒はいましたけど、留年してもへばりついて。ただ、今の子どもたちは留年すると疎外感を受けているのか、そういうので辞めていくのかなと思うんですけれどもね。

【小玉委員】

就職の関係でいうと、本州の企業は入り込みが早いんですね、道東地域の企業よりも。だからタイミング的に本州の方に高専のお子さんたちが抜かれていっちゃってるのかなって気はするんですけど。何か資料出してますよね、向こうは所得が高くて、生活水準が高いから、釧路は向こうより給料は低いけど生活レベルはそんなに変わらないとか。そういうのも

積極的にアピールしていったらいいのかなと思います。

【大塚校長】

一昨年の卒業生に行ったキャリア調査では、都市部に就職して、転職して地元に戻ってくる方の所得は少し下がる傾向があります。ただ、生活満足度と仕事満足度はだいぶ上がるんです。自分自身の場合どうかなというのを考えると、経済的な満足度も重視するんですけども、やっぱり生活満足度、仕事満足度っていうのはそれ以上に優先するのかなと思います。いま、幸福度を評価する動きもありますけれども、幸福感も大事かなという気がしております。就職希望の子の中の、都市によってばらつきはあるんですけど、3割前後の方が北海道で就職して、3分の2が北海道外に就職という傾向があります。なんとなくですけど、10年前と比べると北海道内に残る子の割合が少し増えたかなという気がいたします。だいぶ時代も変わってきたので、最初から満足度とかやりがいとかっていうところを考えて進路を選ぶ子も増えてくると思います。あと、就職後の待遇ですけども、会社によって様々ですが、2歳年齢若いんですけど、入社して22歳になったときの待遇を考えると、大学卒業の人と同等ぐらいの待遇なのかなという気がしております。その一方で、試作品を作るとなると、サッと手が動いて試作品を作れるのは高専の卒業生だったりするので。個人的には、高専の卒業生は、スペシャリストのような雰囲気を出しながら、究極のジェネラリストじゃないかなと思います。大学卒と同様に扱われる一方で、手先が動くのが早い、頭の回転も悪くないので、社会で評価されている要素の一つじゃないかなと個人的には思っています。そうはいつでもいろいろな学生がいますので、学生をどうサポートするかは次の説明で話します。ディスカッションしていただければと思います。

【榮坂委員長】

どうもありがとうございました。まだまだ話したいところですが、次の議題に移らせていただきます。最後の振り返りの時に追加のご質問があれば聞きたいと思っています。

議題2は学生生活サポートについてです。大槻副校長から資料に基づき説明をお願いします。

【大槻副校長】

(「議題2 学生生活サポートについて」 資料2に基づき説明)

【榮坂委員長】

ありがとうございました。ご質問、ご意見があればお願いします。

【小玉委員】

認知件数は、調査対象何人のうちの数でしょうか。

【大槻副校長】

分母は 700 人弱です。専攻科を含めるとちょうど 700 人くらいでしょうか。

【高橋委員】

いじめとひとくくりに話を聞いていましたが、中には暴力や暴言などはありましたか？

【大槻副校長】

身体的ないじめはないです。ほとんどが SNS です。SNS での暴言、言葉の暴力はあるんですけど、身体的なものはなかったです。

【高橋委員】

ありがとうございます。

【榮坂委員長】

今に関連するんですが、いじめは学生間の問題ですよ。一方で、先生と学生との間ではいわゆるハラスメントになります。被害者は学生という点では共通点があるんですけど、ハラスメントについては、どのような対応をされていますか？

【大槻副校長】

ハラスメントについては今回紹介しませんでした。今年度はハラスメント防止ガイドラインを策定しまして、学生に向けても、釧路高専にはこういったものがありますよということで、ハラスメントだけのアンケートを実施しました。学生に「アカハラ知っていますか」「パワハラ知っていますか」と質問したところ、アカハラって実はあまり知らなかったんです。セクハラやパワハラは 9 割以上の学生が知っていたんですけども、アカデミックハラスメントっていうのは、一番自分たちに身近なのに言葉としては認知されていなかったということが分かりました。ただその中で、友達同士の対人トラブル、ハラスメントというくくりでは、先生から必要以上のプレッシャーを受けたことがあるとか、必要な指導を受けられなかったといった不満やトラブルみたいなことは上がってきます。まったくハラスメントがないということではなく、そういったことも起きているし、学生間でも、いじめという括りでの指導はしなかったんですが、性的な意味合いがあるような SNS のやり取りみたいなものが発生したときに、これはセクハラじゃないですかという相談もあり、そちらは対人関係という括りで対応しました。そういう時に、もしかしたら学生が「いじめられているんです」と訴えてきた場合、それは懲戒処分が上がってきたかもしれません。

【榮坂委員長】

組織的なところでハラスメント相談室というのは別であって、そちらと情報共有されていると思うんですが、必ずしも一元化されていないということで、状況や原因によって分かれるということでしょうか。

【大槻副校長】

そうですね、先生と学生の間トラブルはハラスメント相談室の方で対応となります。

【小玉委員】

中学校、小学校でもいじめがあり、釧路市でもいじめの重大事件、一部報道されていますけれども、報道されていないものも実はたくさん抱えています。北海道のスクールロイヤーだとかが入っている案件もあって、重大事案が増えているというのは間違いないです。重大事案に至る背景には保護者のお考えというところもあって、損害賠償を数百万円要求されるですとか、いわゆる被害側から加害側へとか。学校の責任ということで損害賠償を求められることが様々あるので、そういったところへの準備が大事かなと思っています。中学生に集中して育てましようとしているのが2つありまして、1つはSOSを出そうということです。援助希求的態度の育成というんですけれども。いじめられていても、みんなに心配かけちゃうとか、大きな問題になったら困るとか、自分のプライドが傷つくとか、そういったことでSOSを出せないお子さんもいらっしゃるんですね。そういったところに対応するためには、ちゃんとSOSを出すことは恥ずかしくないんだということで、そういう指導を行っています、中学校では特に。

もう1つは、立ち直る力がないので、レジリエンス教育っていうんですけれども。へこんだところから立ち直る、自分たちで何とかする力というものを育てないと常に被害者、被害者、被害者、どんどん入っていくんじゃないかと、最終的には自分たちの力で解決できる力も発達していけば必要だよということ、そんな力もつけさせるということで中学校では取り組んでいます。

【大槻副校長】

ありがとうございます。ハラスメントの話が学生集会でしたあとに、こういった時にはこういったところに相談できるんですよっていう話をした時に、バラバラバラっと相談がありました。援助希求行動ができること、それから、相談窓口を明確化すること、先生に相談したくないこともたくさんあると思うんです。特に高専だと思春期になっているので。そういったときに、学外にも相談窓口があるんだよということも紹介するように努めてきました。レジリエンス教育に関しては、まだまだ高専ではそこまではいけてないと思いました。非常に参考になりました。ありがとうございます。

【榮坂委員長】

それでは時間も押してまいりましたので、議題 2 は終了させていただいて、議題 3 の内部質保証に移りたいと思います。千田副校長から資料 3 に基づき説明をお願いします。

【千田副校長】

（「議題 3 内部質保証について」 資料 3 に基づき説明）

【榮坂委員長】

ありがとうございました。ご質問ございますか？

【大塚校長】

私から補足よろしいでしょうか。今、学校を取り巻く様々な動き、例えば、産業界で求められる基礎知識は何か、社会で活躍するために必要な能力ってどんな能力だろうか。あとは今、AI とかもかなり進んでいるので、昔みたいに知識が頭の中に入っていないでもいい時代になってきて、求められる能力というのが変わってきています。あとはグローバル化もかなり進んでいるので、海外を意識しないで仕事するのはなかなか難しい時代になってきています。そういった学校の外側の動きを考えながら、学校の中身、内部の教育がどうあるべきということを定期的に見直す必要があるということで、常に教育の中身を見直していく仕組みが、今は高専にも大学にも義務付けられている状況であります。本校でも、あまりまだ洗練はされていないんですけども、教育内容を見直していく仕組み作りというのを、かなりエネルギーを注いで千田先生を中心にやっています。

個々に見ると、一個一個の授業も、毎年入学する学生が変わってきます。気質とかももちろん変わるんですけども、小中学校の学習指導要領も定期的にアップグレードされていますので、それに合わせた教育になっているか点検、評価する必要があります。そういったところも、いま学校の中で時間とエネルギーをかけて、やっているところであります。見える化なんかも当たり前じゃないと言われるかもしれないんですけども、成績をつける科目の先生だけが見るのではなくて、学校として責任を持って、こういう成績評価で妥当だったのかどうかというのを事後に検証する仕組みも始めております。そうすると、学生がつまづきやすい科目や単元が見えてきて、じゃあそこを、学生に理解を深めてもらうにはどうしたらいいかというのをみんなで考える仕組みに変えてきております。

30 年前はそこまでなくても社会が寛容でしたけれども、今は少子化が進んでいますから、一人ひとりを大切にして実力を育てあげないといけない時代ですので、こういった取り組みも学校の中で浸透してきています。外部の有識者の方から助言、指導を仰ぐことも大事かなということで、今日こういうテーマを入れさせていただきました。ぜひご助言、ご指導いただければありがたく思います。

【島本委員】

私たちが中学校を卒業して高専に入学した頃は、高専の役割は意外と明確化していたと思います。極端に言うと、日本の国の中での重化学工業を担う技術者、中間管理者を育てるという意味で、高専の役割は明確だったと思うんですけども、時代の変化の中で、重化学工業だけでなく半導体とか、学校が果たすべき役割はどんどん変わっているんですよね。大楽毛は技術専門学院が、地元の産業の中で技術者を育てたいという意味でけっこう人気がありましたけど、今は定員割れするほど大変な時代です。学校も時々によって果たす役割は変わってきていると思います。大変だと思いますが、こういうふうを検証してみて、高専の生き残る道、または榮坂先生の北見工業大学じゃないですけども、工業大学が生き残る方法を時代の中で検証していくことが、優秀な学生を育成し、地域活性化にも繋がる大事なことだと思います。学校の先生、職員の皆さんに大変ご苦勞かけますが、ぜひ頑張っていたきたいなと思います。先ほど、社会に出た時にタフな学生が少ないので、タフな精神を作ってくださいと言いましたが、さっきのいじめ問題とか、先生も大変なんだろうなど。先生の皆さん、めげずにタフでいてください。

それと雑談ですが、いろんなセクハラ、パワハラとかありますけど、オトハラって聞いたことありますか。この前テレビで初めて知りました。シャープペンシルをカチャカチャやったり、電車やバスでヘッドホンをして音が漏れる、それから物を考える時に机をコンコン叩いたりしますけど、関係ない人からするとうるさい、この音がオトハラになるんだそうです。そんなことで、子どもたちの前に出るのは大変でしょうが、ご苦勞様です。

【榮坂委員長】

ほかの皆さん、いかがですか。

【小玉委員】

さすが専門機関、シラバス含め緻密に作成されていると思いました。義務教育でもシラバスを作って、教職員、生徒の自己評価アンケートをやって、毎回面談をやります。ただ、なかなか先生たちが変わってくれないというか。ここだとステップアップ提案書ってありますよね。その授業評価がフィードバックされて、自分たちがどう授業を変えていくのかというところを先生たちがやられているのかなと思うんですけど、中学校や小学校ってなかなかそこが…。面談をやって、こういう評価をされているからこんなふうにしたらどうって取り組むんですけども、なかなか大人は急には変われないところもあって。そのあたりはどうなんでしょうか。

【千田副校長】

正直なところ、そのあたりは変わらないかなというところもありますけれども、見える化で全員が共有する形に変わりました。極端に目立つような成績をつけてしまうと直さなき

やいけないという力が働くとは思うので、こういうことを継続して回していくことで、それがどんどん少なくなるのかなと感じています。どんどん入って来る先生方も早めにこういう教育をして定着させていけば、そのうち全部こうなるんじゃないかなと思います。

【大塚校長】

見える化して良かったなと思うところは、着任して間もない若手の先生もすごく張り切って、試験問題もハイレベルな問題を出題したりして、そして採点してみるとちょっと、というようなこともあったりします。そんなときにベテランの先生から、まだまだ15歳、16歳だから予備知識がこのくらいだからなんていう話が、この見える化のおかげで同じ教科の中とか、分野の中でできるようになってきたのかなと思います。もちろん、今までも会議とか、あるいは廊下で会ったときにはそういう話をしていたんですけども、全部の先生が会議の資料で見られるようになっていたので、そういう意味では、文字を見ながら話をするのと、そういうの抜きに立ち話するのとでは、実際の現状の伝わり方というのが違うのかなと。臨場感ある形で、この先生、この科目で今、お困りだなあなんていうことがあれば、いろんなアドバイスが飛んでくるようになったんじゃないかと思います。

まだ始めて2年目くらいですので、まだまだ改善の余地はあるんですけども。大人なので、その人そのものの価値観を変えるというよりは、手段のいろんなオプションを選べるようになったという意味では、良かったのかなと思います。価値観という意味では、先生方は学生思いで、何とか力をつけて卒業まで、そして、元気のない子は元気をつけさせてあげてという思いはお持ちなので、そこは今までどおりでいいんじゃないかと思います。手段というか、手法を工夫するという意味で役に立つのかなと感じているところです。

【榮坂委員長】

大学も、内部質保証は非常に厳密に捉えられる時代になってきて、私自身が考えるのは、やはり今までお話があったように、いろんな時代の要請に応える必要もあるし、つまり現状に満足しないでステップアップしていくという必要はもちろん、教育機関においても非常に重要なので、こういう仕組みというのは必要だと。あるいは、先ほどお話があったように、こういうことを通して気づくというところもありますので、そういう意味では有効だというふうに思う一方で、私がちょっと注意しなければならぬと思っているのは、こういうシステムというのは、先ほど手段とおっしゃいましたが、手段が目的化しちゃう恐れがあるんですね。要するに、ルーチンでこれをやっているんだ、これで済むんだ、みたいな。本来だったら先ほどおっしゃったように、廊下でちゃんと先輩教員が、ちょっとお前どうなんだみたいなことを伝えるべきなのに、ルーチンの中でそれがむしろ無くなってしまふ、みたいなことは当然避けなければいけないし、それから、その内容が客観性とか定量性というものだけが、そこにフォーカスが当てられやすいんですね。曖昧なものとか定量化できないものというのはちょっと抜け落ちてしまうんですね、ルーチンの中で。だけど我々教育というの

はそういうものではなくて、例えば幸せを目指すんだというのは立派な目的だと私は思いますが、幸せとは一体何なんですか、曖昧ですね、そんなものは目的としては不十分ですよ、みたいなことを言われてしまう。でも、幸せというのは人によって違うじゃないですか。人によって違っていいと思うんですよ。人によって違うものを目指すのが教育じゃないかと思っているんだけど、そういうものがむしろこういうシステムの中で抜け落ちてしまうということに危険性を感じているので、使えようだなというか。内部で自分事として考えるものとして使うのではなくて、人から言われてそれをルーチン化してやるものではないというところに注意しなければいけないというのは、自戒として、本学でそういうことをやる時に常に注意しているところではございました。

何かほかに、だいたい時間でございますが。課題1、2と全体を通して振り返っていただいて何かあればお願いしたいと思います。

【川村委員】

今日のテーマとは関係ないんですけども、コロナ前からテーマになっていました、学生寮の改築の問題がどうなっているのかというお話がよく出ていました。学生寮も複数人部屋がほとんどで、よくコロナを耐えられたなと思っておりますが、改築の計画が進んでいるのかどうなのかというお話を聞かせていただければと思います。

【大塚校長】

ありがとうございます。まず改築の問題なんですけど、改築も申請していたんですけど、新築が認められまして、いま作っている最中です。ただ、完成が来年の4月ぐらい、来年のゴールデンウィーク明けぐらい。資材高騰とかいろいろありまして、当時の計画より伸びておりますが、いま作っているところです。今、寮のあるところの近くの平らな土地に、土台の工事が進んでいるような状況です。60人ぐらいのキャパがあるので、また寮で受け入れられる学生さんの人数も増えていくのかなと思います。そこではシェアハウス方式と言いまして、共通のスペースが大きく取られていて、その周りに個室の部屋があるというような状況です。他の高専でも同じようなシェアハウス型の寮が作られているところがいくつかあるんですけども、話を聞くと、3人部屋、4人部屋の方が人気があるというようです。友達同士で、本校の場合は同じ学年の学生同士が同室になって、先輩とは一緒にならない仕組みなんですけれども、困ったときに、あの宿題どうだっけみたいな話とかですね。そういった時に相談できるのがいいみたいなことを聞いておりますし、そういう雰囲気を大事にしながら寮の運営をされているんじゃないかなと思います。

あと、寮は短期の留学生も受け入れるという前提で予算を付けていただいておりますので、国際交流の拠点などにもできないかなと思っております。始終一緒に生活できるので、今までよりも密に国際交流、生活の場でもできるんじゃないかと思っております。小杉先生から補足があれば、ぜひお願いいたします。

【小杉副校長】

寮務主事を務めています小杉と申します。今、校長から説明がございましたけれども、工期がちょっと遅れておまして、完成すると68名収容できるようなタイプの、国際寮とか混在自由型の寮といわれる形での整備になります。1ユニットあたり7名から8名ぐらいで生活するわけですが、我々が理想として考えている、というか機構の方でも理想として考えているのは、留学生がいて、さらに学年も多様性、同じ学年だけではなくて、5年生と2年生とか、そういう子たちが一緒に共同生活をしていくイメージで建てられているものになります。あくまでも理想なので、うまくいくかどうか分かりませんが、国際化を推し進めていく中ではそういう雰囲気づくりも非常に大切だと思っていますので、新棟ができるまでの間にそういう運用方針をこれから固めていきたいと思っています。68名というキャパシティが増えるんですけども、この先、学寮をどうしていくか、ちょっと難しい問題が直面するところもあります。やはり改修もしていかないと、学生寮はいろんなところで傷んでしまいますので。改修が入ると、その棟に入っている学生を一定期間、寮から出さないといけないものですから、新棟を受け皿にしてうまく回しながら、順次学生寮を新しくして魅力ある学生寮にしていきたいと考えています。

【島本委員】

一人部屋とかっていうことにこだわらないということですか。

【小杉副校長】

そうですね。できれば少なくとも個室、4人部屋とか3人部屋は解消して、あるいは2人部屋を増やしていきたいという思いはあります。ただ一方で、今は地方から来る子が増えていますので、1人部屋、2人部屋を増やすとどうしても収容人数が減ってしまうところがあるので、その辺をどうしていくかというのはこの後の作戦ですね。市内からたくさん来てくれれば、必然的に地方から来る人は少なくなるわけですが、地元の中学生に魅力を発信して、来ていただく努力をするのは当然なんですけれども、それがうまくいかなかった場合には、やはり全国から、あるいは道内広くからということにもなりますので、その時には必然的に寮生が増えてしまうことになるので、そういった部分できちんと整備していく必要があるかと思っています。

【榮坂委員長】

ほかにご意見、ご質問はよろしいですか。それでは大体時間でございますので、課題3件についてご意見いただきました。私としては、高専というのは世界的に見ても非常にユニークな教育システムですし、非常にいろんなポテンシャルがある。しかも今、いろんな意味で期待が高まっている、注目されているところだと思いますので、ぜひ地元の方にもそういう

ポテンシャルをうまく拾い上げていただく、支援していただくことで発展を祈念しています。そろそろ時間になりましたので、ここで議事進行を終わらせていただきます。

【総務課長】

ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。閉会にあたり、校長の大塚よりご挨拶を申し上げます。

<閉会挨拶>

【大塚校長】

長時間、いろんなご助言、ご指導いただきまして本当にありがとうございます。私も釧路高専校長で間もなく3年目が終わろうとしております。釧路は本当にいい場所ですね、釧路で、例えば企業関係者とか自治体の関係者と飲み会がある時には、予定が空いている限り参加させていただいて、いろんな人間関係も広げさせていただきました。そこで分かったのは、やっぱりこの街に、非常に魅力ある経営者の方、自治体の方、いろんな方がいらっしゃるっていうのがよく分かりました。中学校や高校の先生とも交流する機会があって、小玉先生とも何度もご一緒させていただいて、本当に貴重な情報を教えていただきました。今度の4月からの年度で、実は釧路高専は創立60周年を迎えます。還暦になりますので、これからもう1回生まれ変わるとい意味合いが還暦にあるので、また新しい釧路高専に生まれ変わる節目の年ではないかなと考えております。いろんな記念行事などもこれから本格的に計画が動いていくことになりますけれども、例えば記念講演会で、卒業生でセブン銀行の社長をされている松橋さんという方がいらっしゃるんですけど、来ていただいて講演をしてもらおうかなと考えているところです。卒業生もいろんなところで活躍されていて、私が知ってる範囲でちょっと変わった活躍されてる方としては、この1月から豊橋技術科学大学の学長になられた若原先生っていう方が、実は釧路高専の卒業生でして、たぶん高専卒業生で国立大学の学長になるのは極めて異例なものだと思います。素晴らしい活躍されている方もいるので、ぜひ多くの卒業生がいろんな場で活躍されることを祈念しているところです。

今日はいろんなご助言を受けまして、いじめ問題、ハラスメント問題など、言ってしまうと人権侵害は防ぐぞっていうところとかですね。あとは、もっと良い教育をするために、組織的にみんなで協力しながらやっていく。ただし、システムに頼りすぎてしまって手段が目的化しないように、一番大事なところは人財育成です。その人財育成っていうところを大切にしながらやっていこうと感じた次第です。この後関係者で、いただいたご助言、ご指導をもとに学校をより良くするための相談をしていきたいと思っています。今日は本当に長時間、貴重な機会をありがとうございました。また引き続きよろしく申し上げます。

<閉会の辞>

【総務課長】

本日はご多忙中にも関わらず、誠にありがとうございました。以上をもちまして、第 18 回釧路工業高等専門学校運営諮問委員会を終了いたします。ありがとうございました。



配 付 資 料

本校の特色ある教育について



第18回運営諮問委員会
令和7年2月28日
資料1

釧路高専では、**科学**や**技術**で人々や社会の「**幸せ**」に貢献できる**ソーシャル・ドクター**(「社会のお医者さん」という意味)を育成しています。

第18回 釧路工業高等専門学校 運営諮問委員会 配付資料
令和7年2月28日(金)



釧路工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Kushiro College

本校教育の代表的な3つの特色

- ① 授業における**思考体験**と実験実習における**実践体験**を組み合わせ、知識を**必要な場面**で**自在**に使いこなす域まで**理解を深める**教育。
- ② **社会課題**を**探求**することで、**課題解決の知恵**を**アウトプット**する力の育成する教育。
- ③ **大学受験に妨げられることなく**、コンテスト活動、国際交流、部活動並びに文化祭などの中から、**興味・関心**あることに**夢中**になれる**校風**。



全国体育大会

フィンランドからの短期留学生

全国高専デザコン

全国高専DCON

国際交流事業

～グローバルエンジニア育成を目指して～

R5年度およびR6年度の学生の海外活動及び 国際交流について(新規取組)

新規取組

- ① 釧路高専オリジナル海外研修プログラムの提供
- ② 海外語学研修Ⅰ,Ⅱと海外異文化理解研修Ⅰ,Ⅱの新設
- ③ DUYTAN大学(ベトナム)とMOU締結[2024.11.29]
- ④ 学生主体で短期留学生および長期留学生と交流する仕組みづくり
- ⑤ 短期留学生受入時のチューター制度の拡張
- ⑥ 派遣留学生にオンライン面談のサポート
- ⑦ 海外プログラム毎の緊急連絡網の整備
- ⑧ 海外渡航ハンドブック(釧路高専版)
- ⑨ 地域の国際交流イベントに参加
- ⑩ グローバルエンジニア育成事業(オンキャンパス国際交流)
- ⑪ 釧路高専HP「国際交流」の整備
- ⑫ DMM英会話コンソーシアム



ダナン異文化理解研修@DUYTAN大学

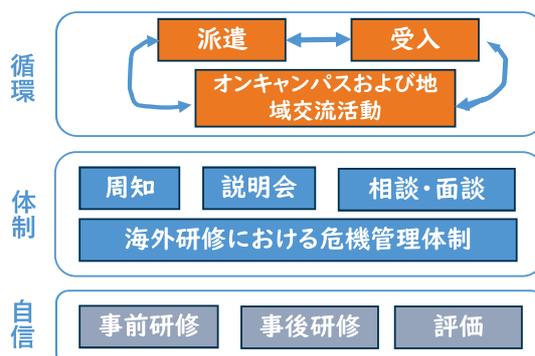


学生主体オンキャンパス交流の1場面

R5年度およびR6年度の学生の海外活動及び国際交流について(実績・成果)



図1:海外派遣学生数



- ① 海外留学・研修に参加した学生増(図1)
- ② JASSO海外留学支援制度(協定校受入・協定校派遣)に採択
- ③ 協定校受入と派遣がお互いの国の文化や学習体験で友好関係が深化
- ④ オンキャンパス国際交流の学生活動の活性化(R5年度は派遣予定学生と女子寮生中心、R6年度は長期留学生と留学経験者含む有志)
- ⑤ グローバル・コンピテンシーが22ポイント向上(R6年度派遣15名平均[2025.01.31現在])
- ⑥ 協定校泰日工業大学(タイ)編入学1名
- ⑦ 協定校トゥルク応用科学大学学生2名と派遣学生1名がスタートアップ開始予定

半導体教育 ～北海道4高専連携の取組～

次世代半導体が一次産業のスマート化に貢献

スマート農業

参照元: 農林水産省 <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/forum/R2smaforum/mattingu/tractor.html>



農業へのロボット技術の応用
次世代半導体によるAIチップはトラクターの自動運転機能を飛躍させると言われている。

スマート漁業

参照元: KDDI総合研究所
<https://www.kddi-research.jp/newsrelease/2022/082301.html>



水上ドローンによる藻場調査
次世代半導体によるAIチップは水上ドローンの自動航行機能を飛躍させると言われている。

道内4高専連携による「北海道半導体みらい論」

「半導体みらい論」開講
道内4高専 1~3年生 新規科目
【旭川】次世代半導体の講座「半導体みらい論」0人が受講した。
道内の高専では旭川、(東)の千歳進出などを受け、旭川高専など内4高専は、新科目「北海道半導体みらい論」を開設した。既に4、5年生向けの半導体の授業はあるが、早期から半導体に関する内容を教える。電気・電子系のほか、化学、土木など各専攻の幅広い分野で取りこむ。

- 令和6年度より1~3年生が**次世代半導体の北海道へ与える効果**を学べる選択科目。
- 道内4高専連携で開講。初年度は**356名が受講**。
- 映像制作や資料提供に**ミツミ電機、アムコー・テクノロジー、ラピダス、興研**、北海道経産局が協力。

- 読売新聞「半導体の役割 4高専が講義」(令和6年3月28日)
- 日本経済新聞「4高専が半導体科目」(令和6年6月15日)
- 北海道新聞「北海道半導体みらい論開講」(令和6年6月25日)

半導体で新しい価値を創る

全4年生が学べる「半導体工学概論」

NHK「ほっとニュース北海道」(令和5年12月11日放映)



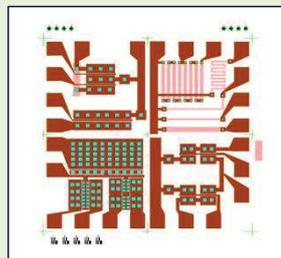
- 令和5年度より**全4年生**が**半導体の基礎**を学べる「半導体工学概論」を開講(選択科目)。
- 初年度**53名が単位取得**(機械、建築も学生17名)
- 学生からは「**メディアで報道されている半導体について、社会に出る前に知識が身についた**」と**好評**。

半導体デバイスの設計・製作実験

北海道新聞「釧路高専半導体教育に力」(令和6年3月7日)

令和5年度に釧路高専の**選択科目(5年生)**として**デバイス設計作製実習**を開始。

- 机上設計したレイアウトを**CADでデータ化**し、**各種製作装置**により**半導体デバイスを20mm²のウエハ上に作製**。
- **初期酸化から配線工程までを一気通貫して実習**し、製作した**デバイスの電気的特性を評価・考察**。「**実験することで深く学ぶことができた**」と学生から**好評**。



学生の学習サポート ～1年数学における学習支援～

学習支援の必要性に関する基本的な考え方

- 急速に**少子化**が進む中、**一人ひとりの個性、能力・適性、興味・関心**を引き出す教育が教育機関に期待。
- **新型コロナ禍**により子どもの**学び合い・教え合いの機会減少**。
- 結果として、**学び方や学習習慣が未定着**な学生が**一定数**入学。
- **受け入れた学生を社会に役立つ**ことができるよう教育して**卒業まで導く**には、**組織的な学習支援が重要**。

1年数学に苦戦する学生への学習支援の概要

- 1年数学に**苦戦する学生にSSL(特別補習)**を実施。教材は授業の基本問題プリント。教員と先輩学生(TA)が個別指導。
- 令和6年7月末よりSSLに**映像教材**を導入。
- グループ面談(2～4名)し、**苦手単元の洗出しや改善を助言**。

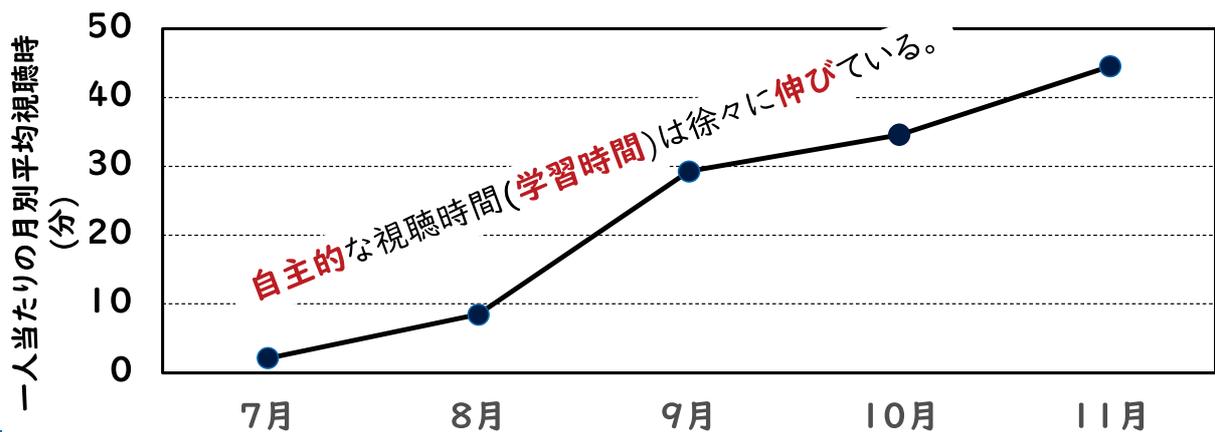


1年生のProot効果分析(抜粋)

1年生の感想

- 説明がわかりやすく、**何度でも見返せる**のが良い。
- **復習したい部分だけを選択**して学習できる。
- 映像授業なので、**自分のペースで学習**できる。
- 苦手なところを**重点的に学習**できるのが助かる。

一人当たりの月別平均視聴時間



課外活動

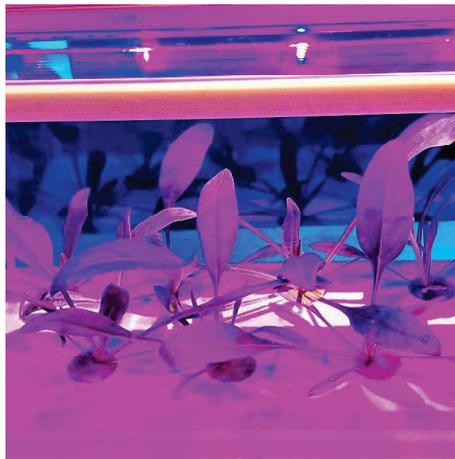
～高専ならではのコンテスト活動～

コンテストで柔軟な発想力を育む

課外活動の意義：人間性や社会貢献への大きな志を育む

感受性豊かな15歳から20歳の5年間に、**大学受験に妨げられることなく**、コンテスト活動、国際交流、部活動並びに文化祭などの中から、**興味・関心**あることに**夢中**になることで、**人間性**や**柔軟な発想力**を醸成すると共に、**社会貢献への大きな志**を育む。

高専GCON2024 (SDGs×Technology Contest)



GCONは、**女子高専生**チームがSDGsの視点で技術開発を提案し、未来の研究者・技術者を育成するコンテスト。

海水と太陽光発電／砂電池を活用した**植物工場エネルギー管理システム**を用いて、淡水が不足する地域で栄養豊富な作物を安定生産する**スマート農業**を提案。

見事に**ファイナリスト賞**を受賞。

コンテストで柔軟な発想力を育む

DICON2024 (Deep Learning Contest)



DICONは高専生が「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用して生み出した「事業性」を企業評価額で競うコンテスト。

AIを活用して**野生動物と車両の衝突事故を減少**させる事業が**ロジスティード賞**を受賞。



全国高専デザコン2023 (全国高専デザインコンペティション)



デザコンは主に**建築建設系**の高専生が生活環境に関連した課題に取り組むコンテスト。

「洗濯」をテーマに霧発生率日本一の**釧路の気候**に合わせた暮らし方や建物の**デザイン**を提案し、**日建学院賞**を受賞。

コンテストで柔軟な発想力を育む

GISS 2025 (Global Innovation Sustainability Summit)



- カタールアカデミーアルワクラ主催の「Global Innovation in Sustainability Summit in Qatar (GISS2025)」は、SDGsの解決策を発表するイベント。
- 釧路高専チームは日本から唯一参加。「住み続けられるまちづくり」をテーマに、釧路市街地のゴミ拾いを促進するアプリ「Goodeed」を開発。
- 利用者がごみ拾いなどの善行を投稿し、他の利用者からのリアクションでポイントを獲得できる仕組み。
- アプリは昨年12月に釧路市内で発表され、今年1月から運用開始。現在、利用者アンケートを実施。

今後において

- ① 在校生が**学校生活をワクワク**できるように、本校の魅力・特色を更に深化したい。
- ② 中学生が**本校で学校生活を過ごしたい**と思えるように、本校の魅力・特色を更に深化したい。
- ③ 「知る人ぞ知る」本校の魅力・特色を**一般の方々にも伝わるように**更に外部へ発信する。

ご清聴ありがとうございました。



釧路高専
マスコットキャラクター
“クシローネ”



第18回 釧路高専運営諮問委員会

釧路高専の学生生活サポート ～いじめ対策について～

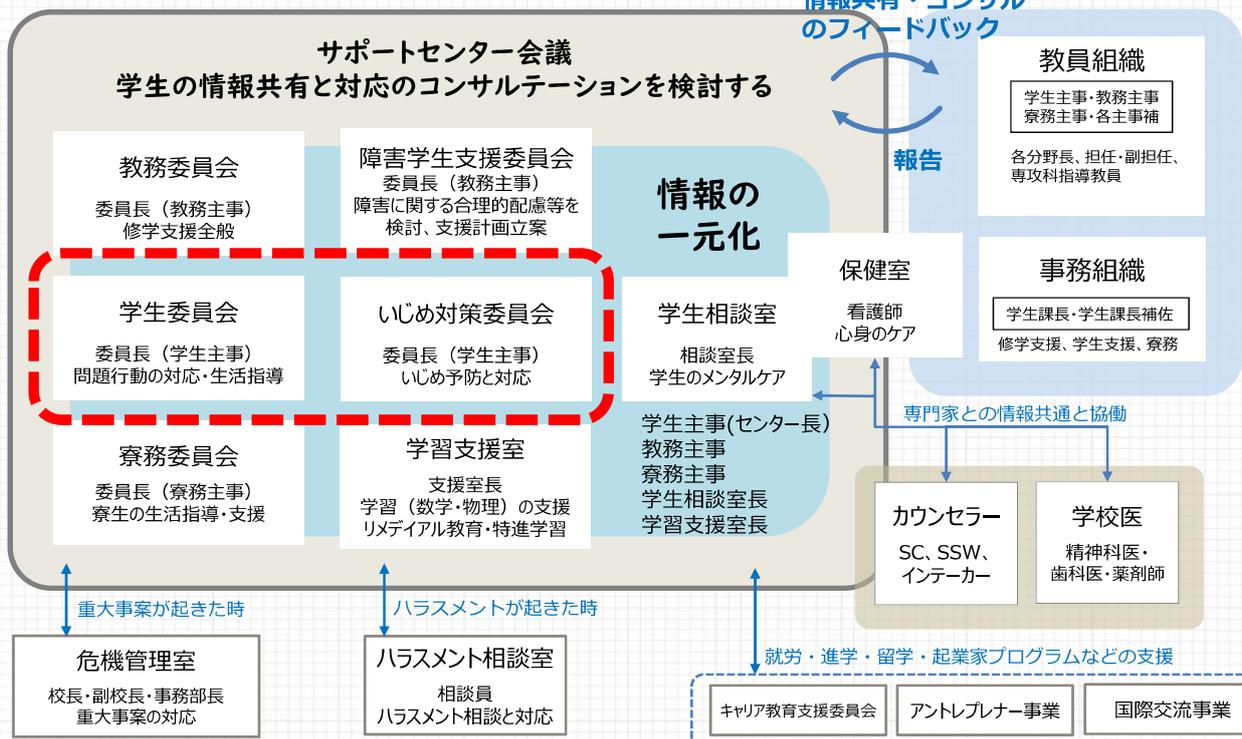
釧路工業高等専門学校 いじめ対策委員会

学生主事 大槻 香子 (建築分野・教授)

2025年2月28日 釧路工業高等専門学校

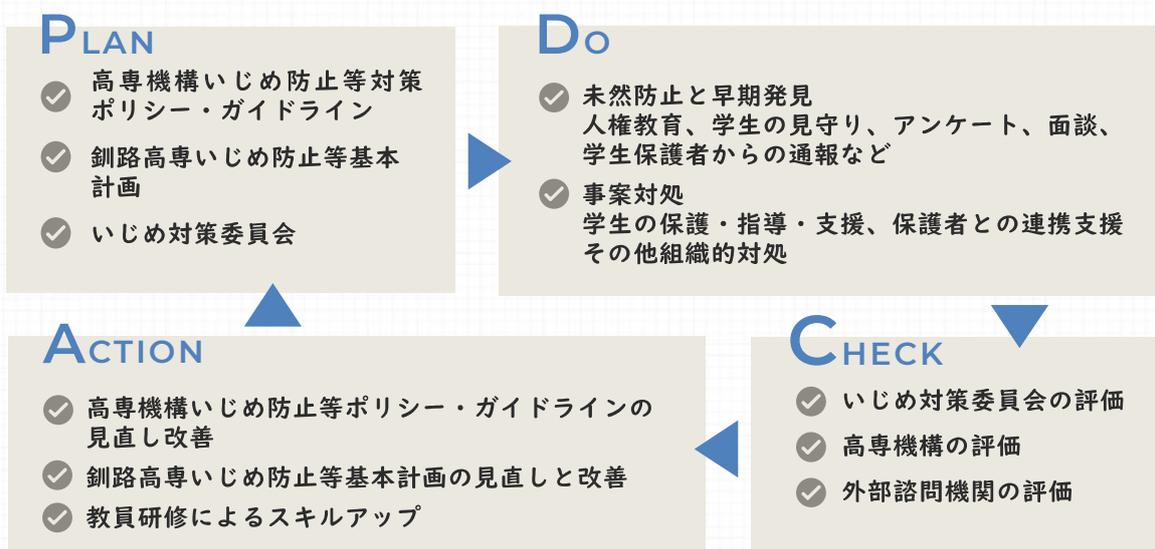
学生支援体制

釧路高専学生サポートセンター



釧路高専のいじめ防止等基本計画

- ✓ 高専機構のいじめ防止対策ポリシー・いじめ防止対策ガイドラインに準拠（2024年9月の高専機構改訂を受けて更新予定）
- ✓ 基本防止計画の「いじめの定義」について教職員の共通理解を図る



いじめ対策委員会

01 委員会の目的

- ✓ 学校におけるいじめの未然防止、早期発見、発生事案への対応
- ✓ いじめ防止に関する企画、定期的な検証と不断の改善
- ✓ 教職員個々の取り組みに加え、組織的に迅速かつ機動的な対応
- ✓ いじめ事案の認知後は、コンサルテーションを含めた迅速な対応

02 いじめ対策委員会定例会議

- ✓ 2ヶ月に1度以上、定例会議を開催し、いじめやいじめにつながりそうな学生の動向について情報共有を行う（2024年度は、月に1度のペースで開催）
- ✓ いじめの認知があった場合はその都度会議を開催、対応を検討する

03 いじめ防止等基本計画に則った予防対策

- ✓ いじめ認知アンケートの実施
- ✓ 特別講演・FD研修などの実施
- ✓ いじめ防止啓蒙活動



主ないじめ対策の実施内容

01 いじめ調査アンケート

- ✓ 6月と11月に「高専生活といじめに関するアンケート」の実施
- ✓ 心とからだのアンケート、HyperQUなどの調査

02 学生向け特別講演の実施

- ✓ 1年2年対象の特別講演（2024年4月）
- ✓ 全学生に対してSNS利用についての特別講演（2024年4月）

03 いじめ撲滅週間

- ✓ 教室掲示やグループウェアを活用し啓蒙活動

04 教員向け研修の実施

- ✓ 高専機構より学生支援担当教授を招聘（2023年3月に実施）
- ✓ 高専機構作成のいじめ研修動画でのオンライン研修（2025年3月に実施予定）

05

2025.2.28 第18回釧路高専運営諮問委員会

5

主ないじめ対策の実施内容

05 いじめ認知度アンケート

- ✓ 特別講演・研修会後に学生、教職員のいじめの認知度アンケートを実施

06 保護者への説明

- ✓ 4月の入学式10月の保護者懇談会にて、いじめ対策と家庭との連携のお願い
- ✓ 保護者向け通信「鶴峰」にていじめに関する釧路高専の対策を発信

07 釧路高専Webサイトにいじめ防止の取り組みを掲載

- ✓ いじめ防止等基本計画

(https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2022/12/ijimeboushi_keikaku.pdf)

- ✓ いじめ防止等対策の取り組みについて

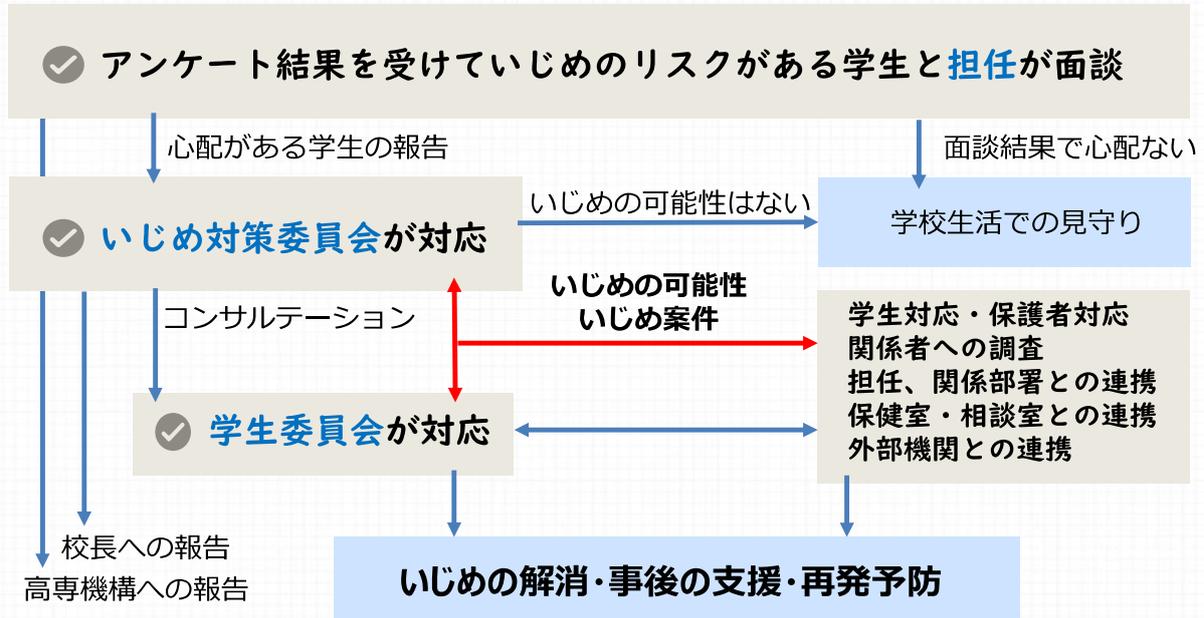
(<https://www.kushiro-ct.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2024/01/HoukokuYoushiki.pdf>)

2025.2.28 第18回釧路高専運営諮問委員会

6

例) いじめ調査アンケート実施と実施後のいじめ対応フロー

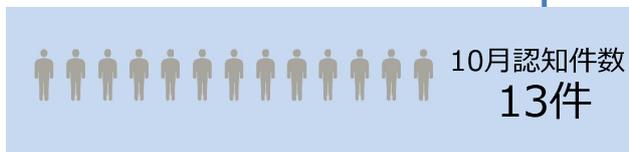
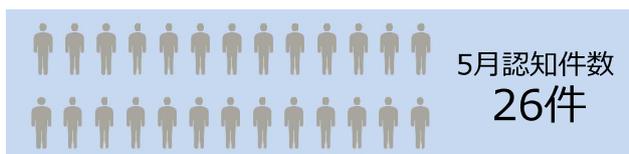
6月と11月に「高専生活といじめに関するアンケート」の実施、
心とからだのアンケート、HyperQUなどの調査など2024年は4回の調査



いじめ認知件数

- いじめ認知件数
- ☑ アンケートで申告されたもの
 - ☑ 教員・学生からの申告
 - ☑ 保護者からの連絡

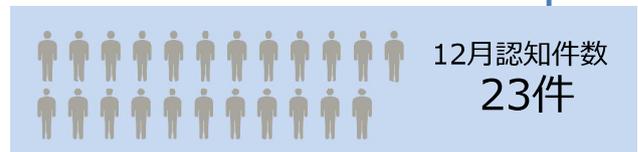
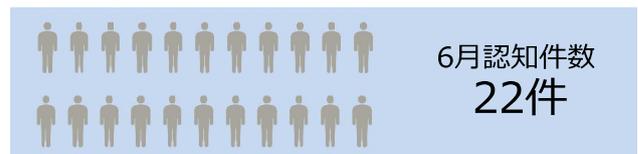
2023年



懲戒処分案件 4件



2024年



2024年度は懲戒処分に発展するいじめはおきていないがいじめに関する相談はある

懲戒処分案件 0件



課題と改善

01 いじめ調査アンケートの回答率の向上

- ✓ 高学年のアンケート回答率が80%以下になるケースが目立つ
- ✓ WebアンケートのURLの告知だけではなく、低学年のようにアンケート回答の時間を確保する

02 教員連携・保護者連携

- ✓ 教員間のコミュニケーションを大切にし、情報共有はグループウェアを有効活用
- ✓ 保護者との関係作りは、学校としての共通認識を守り担任任せにせず、学校としての対応を心がける

03 いじめ認知といじめ理解への研鑽

- ✓ いじめの様態は時代の変化とともに変わることが理解し、研修をはじめ様々な媒体からの新しい知識の更新を意識する



本校における教育の内部質保証の取組み

自己点検・評価委員会 委員長 千田和範

本校における内部質保証の取組み

教育の内部質保証

教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み。

本校は「釧路工業高等専門学校評価・改善基本方針」に具体的な方針を定め実施している。

本校の評価・改善基本方針

(独)大学改革支援・学位授与機構が定める機関別認証評価の評価基準を考慮しつつ、時勢にあわせて評価内容を改善しながら、下記の項目の自己点検・評価を継続的に実施している。

釧路工業高等専門学校評価・改善基本方針

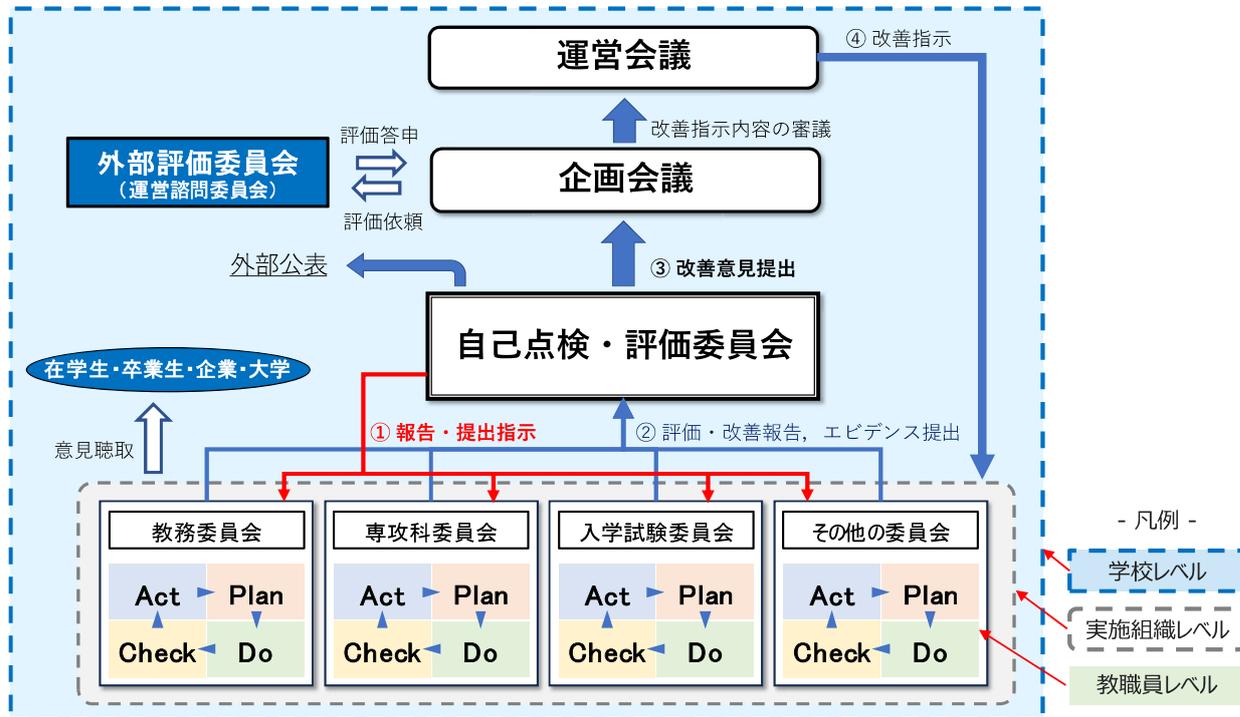
- 基準1 教育の内部質保証システム
- 基準2 教育組織及び教員・教育支援者等
- 基準3 学習環境及び学生支援等
- 基準4 財務基盤及び管理運営
- 基準5 準学士課程の教育課程・教育方法
- 基準6 準学士課程の学生の受入れ
- 基準7 準学士課程の学習・教育の成果
- 基準8 専攻科課程の教育活動の状況



本校における内部質保証の取組み

階層構造を有する実施体制

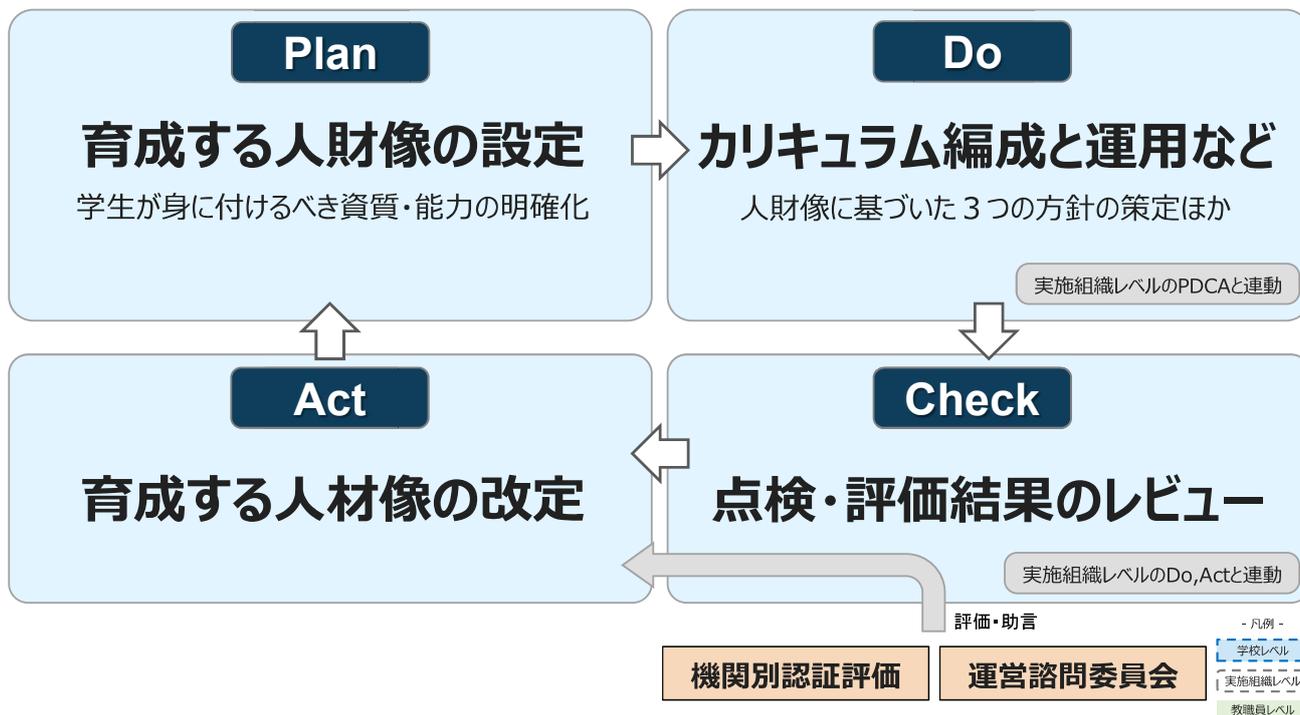
組織的な取組みとするため自己点検・評価委員会が全体を統括し、継続的に行っている。



本校における内部質保証の取組み

階層的な内部質保証システム・学校レベルのPDCAサイクル

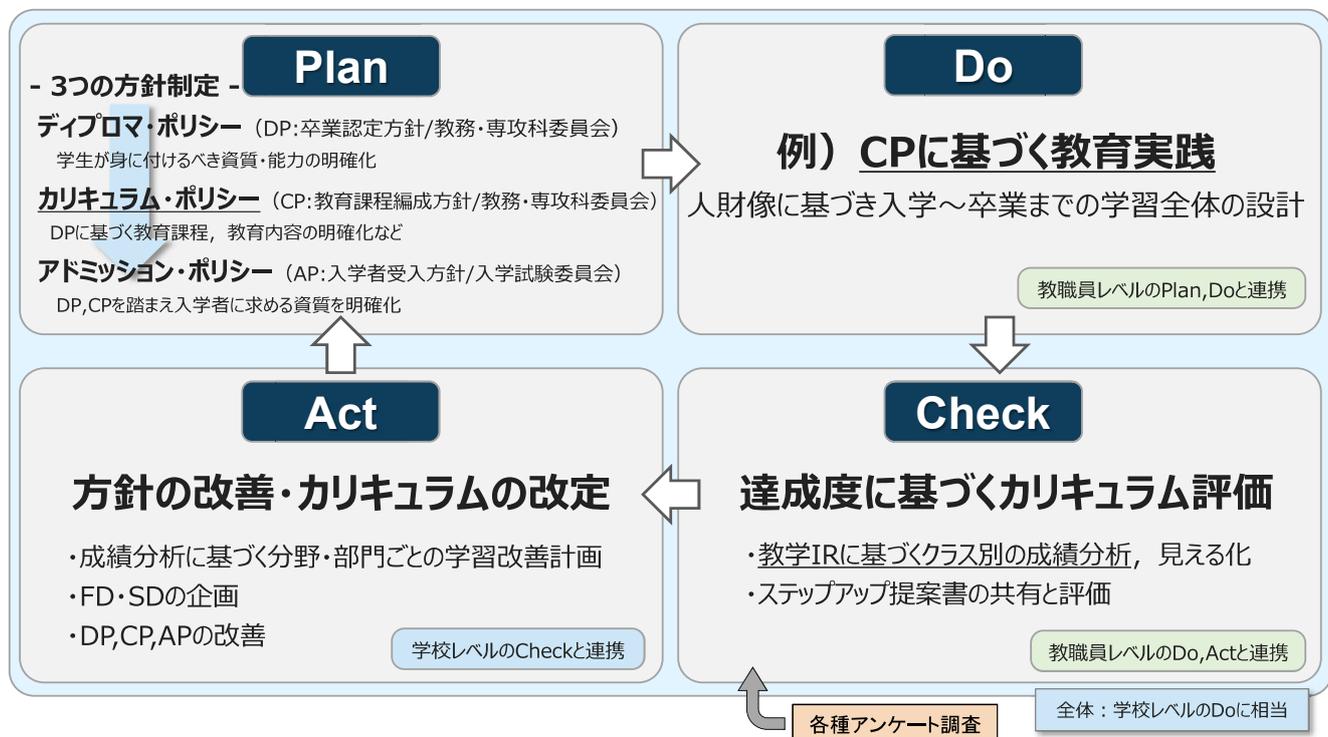
自己点検・評価委員会、企画会議・運営会議が主体となる活動



本校における内部質保証の取組み

階層的な内部質保証システム・実施組織レベルのPDCAサイクル

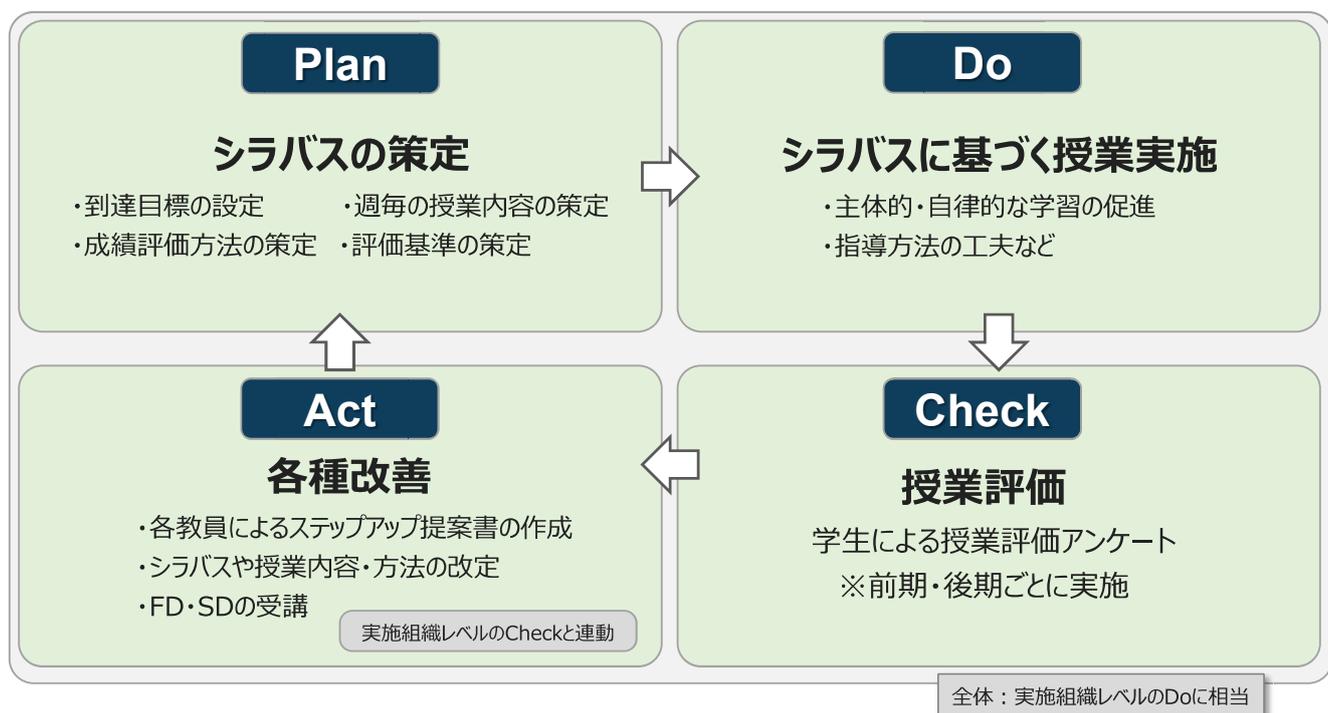
教務委員会，専攻科委員会，入試委員会，教学IR室などが主体となる活動



本校における内部質保証の取組み

階層的な内部質保証システム・教職員レベルのPDCAサイクル

教職員が主体となる教育活動



本校における内部質保証の取組み

本校の具体的な取組み例 1

CPIに基づく教育実践・複合融合演習

- 課題解決能力育成のため、異なる専門分の学生がチームを組む
- 地域課題に対して「アイデアの創出」「試作品づくり」から「現場の声を聴いて改善」までを体験する
- 4年生の分野共通の必修科目

令和6年度テーマ一覧

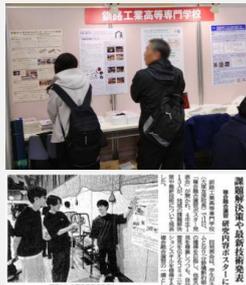
1. AIによる道東の地域課題解決【地域課題探求型】
2. VRを利用したデータ可視化
3. 機械 IoT & ロボティクス【地域課題探求型】
4. スマート農業
5. 釧路の気象環境状況を測って可視化しよう【地域課題探求型】
6. 災害リスクマネジメント
7. 半導体センサとIoT融合技術の社会利用プロジェクト【地域課題探求型】
8. IoT化・自動運転化を目指した自律走行車
9. プロジェクションマッピングで街並みを再現【地域課題探求型】
10. 地域資源の発見と活用を考える提案型設計演習【地域課題探求型】

担当教員による実践事例発表

ビジネスEXPO2024

産総研北海道センター
シンポジウム in 釧路

外部公開



上・R7釧路市地場工業展示会
下・学内複合融合発表会

参加学生による成果発表

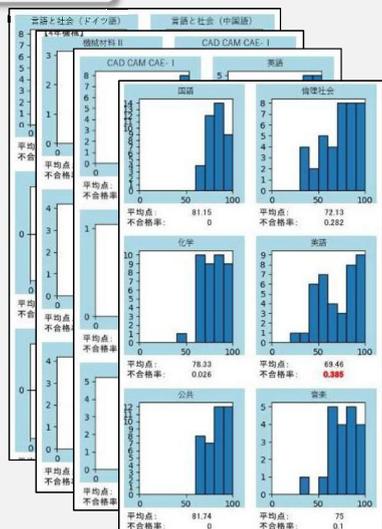
本校における内部質保証の取組み

本校の具体的な取組み例 2

達成度に基づくカリキュラム評価

- 教学IR室は定期試験ごとに全学年・全科目の成績分布を『見える化』し、運営会議に報告
- 各教科・各分野は、達成度の低い科目に対して組織的な学習支援計画を作成し、運営会議に報告
- 学習面のフォローアップ計画に基づき、学習支援を実施

見える化



学習支援計画書の報告

本校における内部質保証の取組み

本校の具体的な取組み例3-1

シラバスに基づく授業実践と評価

シラバス公開により学習指針を明確にし、成績評価の透明性を確保している



高専共通WEBシラバスシステム

到達目標

まづ安定判別法を理解する。員し、定常特性を理解する。ができる。

到達目標：本授業によって学生が到達すべき目標を明確にする

ルーブリック

異なる到達レベルの目安 標準的な到達レベルの目安
法を適用し、解析できる 与えられた伝達関数から特性方程式を求め、安定判別法を適用できる。

ルーブリック：学生がどのレベルを目指したらよいのかを明確にする

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達目標 D (達成)

到達目標との関係：本科目がCPのどの基準に対応しているかを明らかにする

教育方法等

と並から新部系の高度数値的習性までの古
習性(習性)習性(習性)習性(習性)習性(習性)

教育方法：成績評価、予習復習に必要な情報、教科書参考書の情報
勉強する上での諸注意などを明確にし、学生の学習を促す

授業計画

授業内容	両ごとの到達目標
軌跡 1	一次遅れ系のベクトル軌跡を描くことができる
軌跡 2	高次の伝達関数のベクトル軌跡を描くことができる

授業計画：学生が週毎の進捗を事前に把握し、予習や復習の計画を立てるために必要な情報を明確に記述する

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達
制御	システムの選定特性について、ステップ応答を用いて説明できる。		4
	ステップ関数を用いた定常値を用いて説明できる。		4

モデルコアカリキュラム：国立高専のすべての学生に到達させることを目標とする
最低限の能力水準・修得内容と本科目の位置づけを明らかにする

評価割合

試験	発表	相互評価	読取	ポートフォリオ
100	0	0	0	0

評価割合：授業過程で行った試験・レポート・発表など全体の成績にどの程度の割合で反映されるかを明確にする。

本校における内部質保証の取組み

本校の具体的な取組み例3-2

学生による授業評価アンケートと教員によるステップアップ提案書

シラバス公開により学習指針を明確にし、成績評価の透明性を確保している



授業評価アンケート



ステップアップ提案書

企画会議・運営会議

報告

教務委員会・専攻科委員会

授業評価アンケート内容の確認
教員毎のステップアップ計画書の評価

- シラバスと授業の整合性・・・分野CPへの適応度、成績評価の適正さの評価
- 教員の授業に対する姿勢・・・積極的な授業参加を促す度合いを評価
- 教員の授業技術・・・教員のプレゼンテーションスキルの評価項目
- 学生の授業に対する姿勢・・・学生の授業態度、時間外学習の割合の自己評価
- 学生と授業内容のマッチング・・・難易度、興味関心度合いの評価項目

授業評価アンケートを踏まえた
教員の自己分析と授業改善案の検討

- 凡例 -

- 学校レベル
- 実施組織レベル
- 教職員レベル

第18回運営諮問委員会 報告書
令和7年2月

(編集・発行)

釧路工業高等専門学校
〒084-0916 北海道釧路市大楽毛西2丁目3番1号
TEL : 0154-57-7203 (総務課)
FAX 0154-57-5360